

令和2年度 第1回 高知県社会貢献活動支援推進会議 (要旨)

開催日時：令和3年2月15日(月)13:30～15:30

場 所：高知共済会館 4階 浜木綿

議 題：次第参照

1 開会

(事務局)

開会の挨拶。

新任委員の紹介。(出席8名 欠席5名)

2 (1) 第4次高知県社会貢献活動支援推進計画に基づく支援策について

(事務局、ボランティア・NPOセンター)

資料1の説明。

(委員)

今年度はどの業種でも一気にオンライン化が進んだと思う。ボランティア・NPOセンターと、行政のオンライン化体制の対応について話を聞きたい。

(事務局)

県ではオンライン化用の会議室が数室あり、先約により会議室が使えない場合は各課に何台かオンライン用のカメラとマイクセットを準備し、会議に参加できるようになっている。周囲の職員が通常業務で電話対応している場合もあり、詳細な話はできないが、自席から会議に参加できる状態にはなっている。

(ボランティア・NPOセンター)

ボランティア・NPOセンターでは、各職員でもつながるような形にもなっており、現状全国の会議等はオンラインで対応している。一カ所に集合して映し出す場合と一人ひとりで参加できる場合に分けたり、研修や講座等についても行えるように整備を続けている。

(委員)

県内のNPOで、オンライン化対応で何か課題を抱えているとか、そういったことに苦労していないか。

(ボランティア・NPOセンター)

年度の初めにアンケート調査を実施し、オンライン化の対応が分らないNPOが半数ぐらいあった。来年度には、後追い調査をしつつ、オンライン化の支援策を考えていく必要がある。

(委員)

この1年間、計画の推進が難しかったと思うが、県と市町村との熱が違うと思った。町村合併して15、16年経過し、人口も地域によっては3割、4割減少している所もある。高齢化も進み、社会貢献活動、任意的な活動はできにくくなっていたり、県や市町村からの情報を受ける側がなかなか応えきれ

ていないようにも感じる。

他にも、任意団体等の規模の小さいNPOではなかなかオンライン化の対応ができないと思う。そうした中で、県の地域支援企画員に依頼し、中山間地域対策課がしているコロナ対策アドバイザーを派遣して頂いたりした。NPOだけではなくて、県下全体で住民活動が動きやすい環境づくりをお願いしたい。

(会長)

県と市の社会貢献活動の支援での連携について、どのような形でされているのか説明をお願いします。

(事務局)

まず、県の今年度の状況についてだが、社会貢献活動の推進という視点で市町村と十分やり取りができていなかったというのが率直なところ。先ほどお話があったように、支援員を介した取組をすることでもっと強化していくべきところ、報告が十分できていないのが実態である。

(土佐町)

土佐町としても地域の団体に対して十分に支援ができず、県との連携も不十分であった。事務所内の地域支援企画員とは日々連携、情報共有しながら取組をしている。また、集落活動センターの支援も日々連携している。

社会貢献活動の支援という視点ではないが、団体の支援という視点では日頃からどうすれば地域が活性化するのか、組織が活性化するのかというのは考えながら取組を進めている。

(高知市)

高知市では課題のある団体が多くあり、個別ごとになかなか一つひとつ支援という形ができていなかったのが現状である。また、役員や団体自体が高齢化であったり、固定化であったり、様々な課題を持っている状況であり、どう対処していくのか考えていく必要がある。

なお、地域内連携協議会という、地域で活動するたくさんの団体を一つの小学校区で連携させるといった取組をしている。その取組を通じた形で地域活動をすすめているが、コロナ禍の中で高知市の地域活動自体もかなり停滞をしている状況で、この1年は色々と考えさせられる1年であった。そういった部分も踏まえて、どういう形で取組をするのか検討している状況である。

(会長)

では、続いて任意団体を含む小規模団体に対する活動、継続の支援というところについて、今年の結果と今後の在り方について説明をお願いします。

(事務局)

県では、民間の助成制度等の情報をホームページ等を通じてお伝えすることに取り組んでいる。既存の制度以外で、任意団体が新たに活用できる取組を年内に検討するということはできていないが、今ある情報で支援するよう取り組んでいる状況である。

(ボランティア・NPOセンター)

ボランティア・NPOセンターでは、NPOの広報の部分でしっかりと皆さんに情報を届けていくために、ボランティア・NPOセンターのホームページ、ピッピネットで情報提供をし、また年に4回、地域で活動されている方々の情報を取材して、「てをつなごう」という広報誌を作って発表しているので、そういった部分を引き続き実施していく。

(委員)

高知県の人口が減少している中で、地域の方みんなで地域を活性化していく雰囲気づくりが必要だと思う。地域支援企画員が市町村に配属されているし、県と市町村と地域支援企画員がうまく連携しながら住民活動の活性化につなげるように、ぜひともお願いしたい。

(会長)

コロナ禍で学生自身が地域の活動に出たりとか、積極的に動いていくことが難しい状況にもあった。その一方で、いろんな活動、オンラインでも支援をする学生がいたり、コロナで所得的にも困窮してしまった学生のために食料を集めて支援する等、様々な取組を行っていた。

他方、「高知県内のNPOの活動に積極的に参加をしたいが、情報が届かない」という課題があり、「今までピッピネットという情報は本当に知らなかった」とか、「どこでボランティアの情報を調べたらいいいのか」という話を学生から聞くことが多い。

例えば、若者との関わりということでもどのようにしたら学生に情報を届けていけるのかということ、まずは大学側と中間支援組織の方々との、一緒に考えられるのではと思う。

(委員)

提案だが、今まで情報提供は文字ベースで行っていたが、うちの事業でユーチューブである事業の動画配信を作った。各NPOの紹介を文字ベースだけではなくて、視覚で訴えるような団体紹介ができればと考えている。団体に協力していただく必要はあるが、中間支援組織が先頭を切ってやっていかなければならないかなと思う。

(ボランティア・NPOセンター)

ピッピネットでも、動画の配信というのを一部やっていたので、その部分で学生さんで活動されてる方に取材しながら、活動状況を発信していくようなものがあればいいのでは。

(委員)

個人的な意見だが、会社や個人に対してそれぞれの中に社会貢献という選択肢を入れてみてはどうか。本業が忙しく、時間を割く余裕がないのが一般的だが、業務内容の一つに社会貢献があれば実行できるのではないかと。コロナ禍で働き方が変わり、社会貢献が選択肢の一つになる状況になって欲しいと思った。

(委員)

企業の立場から話すと、ここ数年、社会貢献活動を本業としていかに取り組んでいくかというのが各企業のテーマになっている。例えば、この部門については本業のどの部門に移す、この社会貢献活動については本業のこの部門に移すというように、具体的な活動がもう既に始まっており、そこについても行政やNPOともネットワークは組めるので、積極的な情報交換を企業も望んでいるという状況である。

あと、企業がそのニーズを見つけるのは難しいのではと思う。例えば、高知市だと、まちを美しくする運動という形で呼び掛けをしたら、多くの企業が参加してくれる。清掃活動等、ニーズの部分をごくまで把握をするのか、それが必要ではないかと思う。

(会長)

日常生活の中に社会貢献を選択肢として入れることは大事である。社会貢献月間や、社会貢献を勧め

られるようなことがあってもいいのではと思う。NPOを支援されている立場から、日常の中で個人が社会貢献を行っていくことについてどうか。

(委員)

まるごと高知 Online Shopさんとコラボして、お取り寄せで「寄附ぎふと」を始めた。期間限定だが、4月まで高知の美味しいものをお取り寄せするごとにNPOへ寄付をすることができる仕組みである。また、ファンレイジングプロジェクトというのを立ち上げて、何かよさこい祭りと一緒に寄附ぎふと的なことができないか考えている。今年よさこいがあれば夏に行動する。

(委員)

海昌という会社では、のり面工事の訓練をするという目的で里山を買ったそうだ。森林保全を行っているNPOと一緒にあって、里山の木を刈って道をつけて、植樹をして、市民の方に開放する活動をしており、避難タワーの代わりにその里山を市民の方の避難場所に使ってもらうことにしている。まず本業を生かして、社会貢献活動に取り組む事例を行政が広報していただければ、いい事例になるのでは。

2 (2) その他について

(事務局説明)

(会長)

予定の議事は全て終了した。事務局へお返しする。

(事務局)

以上をもって、令和2年度第1回高知県社会貢献活動支援推進会議を終了する。